

(道徳科)

## 自己の生き方について考えを深める道徳科の学習と評価

大阪市立粉浜小学校 春山 陽子

### 1. 研究の趣旨

本校の児童は明るく素直で、何事にも興味関心をもち、与えられた課題に意欲的に取り組むことができる児童が多い。また、困っている友だちに優しく声をかけたり、様々な活動にも進んで取り組んだり、思いやりの気持ちや責任感をもって楽しく学校生活を送ることができている。その一方で、きまりを守れなかったり、友だちの気持ちを考えずに行動したりする児童も少なくない。

そこで、平成 27、28 年度は研究主題を「自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる～道徳の時間の指導を通して～」として、道徳の時間を中心に、友だちの意見や考えをしっかりと聞き、それに対して自分の意見や考えを述べることのできる言語活動の充実について研究を進めてきた。しかし、伝え合う中で道徳的価値を深めたり、児童が自分のこととして受け止め、自分の経験と照らし合わせて考えたり、感じたりするまでには至らなかった。平成 29 年度は、研究主題を「自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して～考える・わかる授業づくりの工夫～」とし、授業の中で、道徳的価値について考えを深め、議論する場面を設け、新たな道徳的な価値観の獲得ができるような道徳科の授業の研究を行った。「特別の教科 道徳」の実施に向けて、1 時間で達成できる具体的なねらいを設定し、そのねらいにせまる発問構成を工夫した授業づくりを行った。そして、平成 30 年度は研究主題を「自己の生き方について考えを深める道徳科の学習と評価」として、道徳科の授業づくりに加え、評価についての研究も進めてきた。

### 2. 研究の視点

#### (1) 具体的なねらいの設定

1 時間の道徳科の学習における児童の学び・成長を評価するためには、1 時間の学習のねらいが達成できたかどうかの視点で評価を行う必要がある。そのためには、その授業で扱う資料の特質を生かした 1 時間で達成可能な具体的なねらいを設定して、授業を行う。

#### (2) 考えを深めるための工夫

##### ○教材提示

児童が教材の内容を深く理解することができるような有効な手立てを工夫する。

挿絵 紙芝居 ペープサート 実物資料 ICT 機器 など

##### ○ねらいにせまる発問の精選

中心発問だけでなく、補助発問を活用することで、児童の様々な思いや考えを生かしながら、ねらいにせまる児童の思考を深めていくことができるようにする。

##### ○書く活動

児童が自分の考えに向き合い、深めたり、整理したりできる機会をつくる。

##### ○話し合い活動

考えを出し合う、まとめる、比較するなど、目的を明確にして効果的に話し合いが行われるように態様を工夫する。

#### ○表現活動

役割演技や動作化など、疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決することができるようにする。

#### ○板書を生かす工夫

思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなど板書構成を工夫する。

#### ○終末の工夫

道徳的価値をどの程度理解できているか、新しい気づきがあったかなど、評価につなげていく。

### (3) 具体的な評価の工夫

#### ○道徳ノートの記事

1時間で達成可能なねらいを設定した授業を行い、終末に児童が書いた「道徳ノート」をもとに児童の学びの評価を行う。

#### ○授業中の児童の行動や発言

授業の中で、これまで見られなかったねらいにせまれた発言や行動、自己をふり返るような発言や行動を記録し、評価に生かす。

#### ○学期末の自己の振り返り

学期末に、その学期の道徳科の授業での自分の変容を振り返ることで、より道徳性を高めることができる。振り返る際、道徳科の授業を通して成長したと思えること、深く考えたことを記述することで、児童が一生懸命考え、見方・考え方が変容した授業について知ることができる。それにより、的確な評価をすることができる。

## 3. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 1時間で達成できる具体的なねらいを設定し、そのねらいにせまるための発問構成を工夫した授業作りをすることで、終末の書く活動では、ねらいにせまることを書いている児童が多く評価につなげることができた。
- 学年の実態や、教材の内容に合わせて、効果的な考えを深める工夫を取り入れて授業を行うことで、児童が自分のこととして受け止め、自分の経験と照らし合わせて、考えたり、感じたりすることができるようになった。
- 児童一人一人が道徳科の学習の中での書く活動や話し合い活動を通して、自分の考えや感じ方を伸び伸びと表現することができるようになり、友だちの意見にしっかり耳を傾けることができようになった。
- 道徳ノートや授業中の児童の発言から具体的な評価文を考え、話し合うことで、教職員間で評価の在り方について、共通理解することができた。

### (2) 今後の課題

- 具体的なねらいの達成に向けて、発問構成の工夫などに加え、効果的なICTの活用を取り入れていく。
- 児童がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるような説話、格言などを活用した、終末の工夫にも取り組んでいく。